

噛み合わせ機能を創造する杉元敬弘の院内新聞

# FUNCTION

VOL.2



既成の枠組みに囚われることなく、  
目の前にいる患者さまのために  
常に最善を尽くしたい。

## Contents

患者さまへ	Message
杉元の常識	Opinion
杉元が答える	Communication
杉元の歴史	Background
周囲の視線	Around
お知らせ	News
患者さまの声	Voice

## 患者さまへ

「こんにちは。杉元敬弘です。

まずは、「こ」最近の私の活動についてお話し  
たいと思います。私は、常日頃から、歯科医  
として知識を増やし、技術やセンスを向上さ  
せるため、国内外の歯科業界の学会や勉強会  
に積極的に参加しています。先日は「頸関節症」  
「咬合」をテーマにした理学療法士と歯科医の  
研究会にて、講師として参加してきました。

当院に来院された患者さまでも、実際に、  
歯科以外の科目の医師の協力がなければ、そ  
の症状を引き起こした要因が見当たらないと  
いうケースがあります。しかし、現状、歯科  
医と歯科以外の科目の医師が協力し合って  
「咬合」や「頸関節症」の診断や治療を行っ  
たり、お互いの分野に対する理解を深める機  
会を持つことは、ほとんどありません。私は、  
常に既成の枠組みに囚われる「ことなく、最善  
を尽くすべきだ」と思っています。今回の研究会  
は、枠組みに囚われている同業界に向けた啓  
蒙のひとつです。今後もこのような活動は行  
ていきたいと考えています。

それから、患者さまへのご報告です。当院の  
ホームページをリニューアルしました。私の治  
療に対する考え方、「噛み合わせ」や「インブ  
ラント」などの治療について、わかりやすくま  
とめています。また、この院内新聞も、ホー  
ムページ上で閲覧・印刷いただけるよう「し  
ました。さらに、ブログでは日々の私の活動  
なども書いていく予定です。ご覧いただき、  
何らかの形でお役に立てれば幸いです。



## 「咬合」なくして歯科治療はない。 たとえ1本の虫歯であったとしても、 顎関節と筋肉と歯の調和を診るべきです。

Opinion

### 杉元の常識 【咬合】

杉元氏が診療のテーマとしている「咬合」。なぜ、「咬合」を探究する必要があるのか。今回はその理由について聞いてみた。

——先生が「咬合」を診療のテーマにされているのはどうしてですか？

「咬合」は、歯科医が診断や治療を行う上で絶対的に必要なものだと思うからです。実際は診療の分野として分けるようなものではないとも思っています。

——なぜ絶対的に必要だと？

まず、「咬合」は顎関節、筋肉、歯の3つで構成されています。そして、歯科領域の病のほとんどが、これらに関連しています。歯に症状が出ていても、診断をしてみると筋肉や顎関節に問題があるということがありますから、歯科の診断は「咬合」なくしてありえないんです。

——では、顎が痛くても、実は歯や筋肉に要因があるということもあると？

そういうんですね。例えば、「治しても治しても、同じ歯ばかり悪くなる」「同じ歯の

詰め物ばかり取れる」「急に歯と歯の間に虫歯ができる」「若いのに一部だけ歯槽膿漏のようになる」といったケース。「よく一般的な症状ですが、これらも、症状が出ている部分だけではなく、ほかの部分との不調和によって起こっていることがほとんどです。ですから、虫歯があるから虫歯のある部分だけを治すというようなことをしていると、その場では治ったように感じますが、年齢を重ねることに顎関節や筋肉、ほかの歯に問題が出てくるんです。

——症状の要因はどのようにしてわかるのでしょうか？

見てわかる場合もありますし、レントゲンを撮ってかかる場合もあります。場合によっては違う手法を使うこともあります。結局、僕が繰り返し言う「診断」というのは、それなんですよ。

そもそも、歯科医は「咀嚼機能の改善」と「歯周組織の保全」をしなければならないんです。患者さまに被せ物を装着する際に内にラボを設けて技工士と連携を取っています。患者さまに被せ物を装着する際に調整が入った場合でも、どうして調整が入ることになったのかという点について、必ず技工士と話し合っています。それぐらいなければ、「歯周組織の保全」は難しいと思っています。

### 杉元が答える

Communication

駐車場が  
空いてないときがあります。  
なんとかしてもらえませんか？

A&Q

当院では、約1カ月前より患者さまにアンケートのご協力をお願いしています。評価していただいている点は励みに、ご指摘いただいた点は改善に結び付けたいと思っています。

そこで、まずは、「駐車場」に関するご指摘についてお答えします。現在、当院では駐車場を3台分用意しています。が、ご指摘がありました通り、ご来院いただきました患者さまが車を停められないという事態が起こっています。患者さまではない方が駐車されていることもありますし、患者さまが診療の前後に診察以外の用事で車を置いたままにされていることもあります。当院としては駐車場の台数を確保すべく、近隣の駐車場を探しているところですが、患者さまの間でも、お互いにマナーを守って譲り合っていただきますようお願い申し上げます。

## 杉元の歴史

### — 大学時代 —

父親の意志を汲み、勉強をはじめた杉元氏は、無事に徳島大学の歯科部に入学した。「純朴だったんでしょうねえ。『自分がいるのは四国。四国で歯学部があるのは徳島大学』という発想しかなくて、大阪とか東京に行くという発想はありませんでした」

入学後、学校では総代に。バイトでは進学塾の運営。さらにはバンド活動をしてテレビに出演するなどし、大学生活を謳歌した。が、基礎医科の勉強を終え、歯科の勉強を始めた4年生の途中、彼は壁に当たった。

「歯科の授業で教える内容があまりに稚拙だったので、愕然としたんです」

幼少期から憧れていた兄は、着実に医師への道を歩んでおり、歯科への幻滅は増し、医科に対する劣等感は深まるばかり。

そんなとき、杉元氏は、京都から就職説明会にやつてきたある歯科医師の話を聞き、自身の将来に薄らと灯りを見た。「『長い世界で本質を探る勉強をして行きたいなら、稼ぐ必要がある』」というような内容だったのですが、それによって、狭くて浅い。という僕の歯科に対する印象が変わり、臨床になればもっと本質的な勉強ができるんだという希望を持つことができたんです」

歯科医師としてのモチベーションを保てる感じた杉元氏は、大学に残って勉強を続

## 医科への劣等感と歯科への幻滅がありましたね。

スギモト歯科医院の隣にある矯正歯科クリニックの院長、江口公人氏は、杉元氏と治療上で連携プレイをとつて10年近くになる古い仲。誰よりも彼を知っていると言つても過言ではない江口氏は、彼をどう見てきたのか、どう見ているのか!?

——前回、江口先生は杉元先生を「自分とは違うタイプ」とおっしゃいましたが、では、なぜそんなおふたりが、連携プレイをとることになったのですか?

——首席で大学を卒業した。

「家庭の経済力がないので大学院は難しいと思つていたけれど、主席で卒業して奨学生がもらえることになったので、悩みました」

そして、ある日、知人の紹介で占い師に会つた彼は、半信半疑で「京都へ行くか、徳島に残るか、悩んでいる」と話した。占い師はこう答えた。「明日、家を出てしばらく歩くと駐輪場に犬がいる。その犬が白なら徳島に。色があれば京都へ行きなさい」

——と言いますと?

歯科医が、矯正・インプラント・歯周病・歯み合わせなどで患者さまをトータルにマネジメントしていくというスタイルは、自分たちにとっては必然だったんですよ。

——でも、違うタイプだからこそ、あつというしてほしいとか、杉元先生に求められることは出でこないのでですか?

——え。むしろ逆ですね。杉元が全方位的に「やる」「できる」というタイプの人なら、おそらく

違うタイプだから一緒にいる意味がある。全方位的にやろうとする人だったら、一緒に治療をしていなかったと思う。



江口 公人氏

1962年、4月生まれ。徳島大学卒業後、京都の歯科医院に勤務。そこで杉元氏と出会い、約10年前、杉元氏と同時期に京田辺市で「江口矯正歯科クリニック」を開業。

一緒にしていない。違うタイプの人間がふたりでしているから、1+1を2ではなく、4や5にすることができると思う。お互いに「ない部分を補完し合つて、凸凹がうまい具合にまわつている。とてもいいバランスだと思います。

## 周囲の視線

——では、最後に、杉元先生にひと言メッセージをお願いします。

いつも君のことを見ている。

——意味深ですね。それは、見守っているということですか? それとも監督しているというような「アンダースですか?

どちらもです(笑)。

いつも君のことを見ている。

## ① アンケートのご協力をお願いします!

スギモト歯科医院では、「より満足していただける医院」を考えるために、患者さまにアンケートのご協力ををお願いしております。ご協力いただいた方には歯ブラシ1本を進呈させていただきます。ご協力のほどよろしくお願いいたします。



## ② お手紙をお待ちしています!



院内新聞「FUNCTION」では、通院されている患者さまから、杉元医師へのご質問やご意見、治療の体験談など、歯に関するお手紙を募集しています。新聞に掲載させていただいた方には、香川で育った杉元医師オススメの半生うどん「かな泉」の鎌田醤油のうどん醤油付き「ぶっかけうどん」を進呈します。ふるって応募ください！

▲「(株)うどんの庄 かな泉」  
<http://www.kanazumi.co.jp/>

### [ 応募方法 ]

お手紙やお葉書に、氏名・年齢・性別・電話番号・ご住所を明記の上、医院のポストに直接投函いただくか、必要分の切手を貼ってご郵送ください。書式や文字量は自由です（作文のみ、800～1200文字の文章量）。

匿名希望の場合は、「匿名希望」とご明記ください。

\*個人情報保護法に則り、患者さまからご提供いただいた情報はこちらで責任を持って管理させていただきます。

ご掲載させていただく際、内容は変えませんが、一部文章を変更させてもらう場合があります。ご了承ください。

また、お送りいただいたお手紙やお葉書はお返しできませんので、ご注意くださいませ。

医療法人 幸加会

**スギモト歯科医院**

〈 電 話 〉 0120-76-3718 (0774-64-2424)

〈 F A X 〉 0774-64-2266

〈 診 療 時 間 〉

(月～金) 10:00～13:00 / 14:00～20:00

(土) 10:00～13:00 / 14:00～18:00

〈 休 診 〉 日曜日、祝祭日

〈 主 な 設 備 〉 完全個室、オペ室完備、駐車場

〒610-0331 京田辺市田辺中央 1-2-11 アトリオパーク 2F

## ◀ VOICE 患者さまの声

一年ほど前、急に口が開けにくくなり、食事をするのもままならず困っていたときに、姪から「噛み合わせを専門としている歯科医院がある」と教えられ、スギモト歯科医院を訪れました。

まず、はじめは簡単な歯の体操を杉元先生から指導してもらいました。

なんと、その場で口が開くようになり、手術まで考えて悩んでいた数ヵ月がウソのよう。それから、入れ歯の不具合、食べものが食べられないということなどをお話しすると、新しい入れ歯を作ってもらいました。

毎日のように昼食にしていた麺類も口をすぼめると入れ歯が歯茎から浮き上がって人前ではとても食べられませんでしたし、朝食の楽しみのひとつだったバケットもムリ。大好きなお餅が入れ歯にくっついてくるので怖くて食べられない…。そのようなことが、入れ歯を変えてもらっただけで、すべて解消されました。今ではルンルンの毎日です。

年齢を重ねると、さまざまな欲求のなかでも、食欲が占める割合がグーンと大きくなってくるもんだということを実感しはじめた頃に、歯が開かないという事態に見舞われ、心ならずも詰めの日々になっていただけに、先生との出会いに本当に感謝しています。

また、治療に寄せていただいたビックリしたことがほかにもあります。ドアが開くと同時に「おはようございます」と受付の明るい雰囲気。さらに、歯科衛生士さんたちのテキパキとした感じの良い対応や親切な説明、爽やかな笑顔。いつも感心し、元気をいたたいています。

一度、皆さんにお礼を申し上げたいでお葉書でも書こうかと思っていましたところに、こういう機会があることを知り、書かせてもらいました。「これから的人生、歯のことは先生にお任せしておけば大丈夫だ」というこの大きな安心感。得難い幸福を感じています。

京都在住／M・B(73歳)

<http://sugimoto-dc.jp/>

